

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 (四国)		スーパー（店長）	販売量の動き	・天候に恵まれて、購入点数が増加傾向にある。また、1品単価も、青果、野菜の相場高に支えられて、上昇傾向にある。
		通信会社（技術）	販売量の動き	・当社サービスの中で、利益率の高い物の販売量が伸びている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・毎週土曜日に行われている土曜夜市の人出も、例年以上である。また、7月24日にオープンした県市合築の図書館への来客数の増加も影響している。観光客もかなり多い。
		スーパー（財務担当）	販売量の動き	・猛暑で夏物商材が好調である。
		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・7月はバーゲンセールの特長月でもあり、酷暑ではあったが、比較的、天候に恵まれたため、客が比較的多かった。台風の影響も受けたが、売上高は少しプラスであった。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・エアコン、扇風機という季節商材がけん引しており、他部門の減少分をカバーしている。
		乗用車販売業（営業担当）	販売量の動き	・新型車発表の効果もあり3か月前に比べ会社・店舗・個人含めて契約数が伸びている。
		美容室（経営者）	お客様の様子	・猛暑の影響で飛び込み客が多い。
		商店街（事務局長）	販売量の動き	・気温が非常に高い日が多く、日本人は高齢者を中心に外出を控えている。インバウンド客は気候に関係なく増えており、売上に貢献している。地元百貨店が従来7月中旬に行っていた夏のセールを今年は6月末に前倒しして6月は好調であったことから、今月は反動減を予想している。
		一般小売店〔酒〕（販売担当）	販売量の動き	・定番商品以外、ほとんどの商品が動かない。飲食店も平日の来客が減少している様子で、納品も減っている。
		スーパー（企画担当）	単価の動き	・商品の値上げの影響により、平均単価が上昇しているため来店客数より売上の前年比が伸びる状況が続いている。6月以降の天候不順により青果物の高値も続き更に売上が続伸している。
		コンビニ（店長）	単価の動き	・客数は前年並みだが、客単価が上昇している。
		コンビニ（商品担当）	来客数の動き	・例年にない猛暑の影響で客数増を見込んでいたが、見込んだほど伸びていない状況である。
		コンビニ（総務）	来客数の動き	・天候や気温に大きく左右されるが、来客数が前年比で苦戦している。その分を客単価でカバーし前年の売上高をクリアしている状態である。
		家電量販店（副店長）	来客数の動き	・猛暑の影響で、エアコンは好調に推移しているが、映像系の売上の伸びが悪い。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・今月の新車受注状況は前年並みで推移している。
		乗用車販売店（役員）	単価の動き	・少し受注が落ち着いており、利益率が悪化傾向にある。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（副支配人）	お客様の様子	・セールが始まっているが、安くなっているだけでは売れない。必要な物しか購入しようとしていない。
		通信会社（支店長）	販売量の動き	・特段の変化は、みられない。
		通信会社（営業部長）	販売量の動き	・販売量が3か月前とほぼ同量である。
	競輪競馬（マネージャー）	販売量の動き	・来店客数は増加傾向にあるものの、個人個人の利用額が減少気味であり、売上高は余り変わらない状態である。	
	設計事務所（所長）	単価の動き	・徐々に建築の単価が上昇している。	
	商店街（代表者）	来客数の動き	・来店客数が減少している。異常気象、猛暑の影響で外出を控えているか、空調が完備されたショッピングセンター等に人が集まっているのではないかと。	
	商店街（代表者）	来客数の動き	・平成30年7月豪雨の影響で多少物流が鈍化している。また、猛暑の影響で野菜等の生活用品の価格が高騰し始めている。これほどの猛暑だと客の動きも鈍化している。	

	一般小売店〔生花〕(経営者)	来客数の動き	・猛暑のため、昼間の来客が激減した。お墓参りの商品が例年よりも売れない。
	一般小売店〔書籍〕(営業担当)	お客様の様子	・7月の猛暑の影響で、来客数が落ち込んでいる。
	百貨店(販売促進担当)	販売量の動き	・前半の平成30年7月豪雨、中盤の猛暑、後半の台風と悪天候が重なり、売上・動員共に前年より悪化した。
	百貨店(販売促進担当)	それ以外	・平成30年7月豪雨のため、売上・来店数共に苦戦した。
	コンビニ(店長)	販売量の動き	・コンビニ業界では、7月、8月の売上が店舗経営に一番影響を及ぼすが、近年の売上減少に更に拍車がかかる状況になっている。
	衣料品専門店(経営者)	来客数の動き	・今月は平成30年7月豪雨の影響もあり、南予方面からの来客が少ない。余り景気は良くなっていないのではないかと。
	衣料品専門店(営業責任者)	販売量の動き	・セール期間の前倒しもあったが、平成30年7月豪雨や台風、猛暑の影響が重なり、来客数が大幅に減少したことで、売上は10%近くのマイナスで推移した。
	一般レストラン(経営者)	来客数の動き	・平成30年7月豪雨の影響で自粛ムードが漂っている。
	観光型旅館(経営者)	来客数の動き	・平成30年7月豪雨で、愛媛県の南予地区は特に大きな災害があったため、愛媛県は全体的に「危険性がある」というイメージで、客が減っている。
	都市型ホテル(経営者)	来客数の動き	・大阪北部地震に続いて、平成30年7月豪雨があり、この2つが消費者マインドを冷やしている。キャンセルも多く、先の予約でもキャンセルがある。また先の予約が伸びてこないといったところが非常に危惧される。
	旅行代理店(営業担当)	来客数の動き	・平成30年7月豪雨の影響が出ている。
	タクシー運転手	お客様の様子	・客の乗車率も悪い。実走行から比較すると、30~40%の乗車率になっている。また、接待もなくなったという声も随分あった。
	× 一般小売店〔乾物〕(店員)	来客数の動き	・大阪北部地震、平成30年7月豪雨、異常高温、これで客は来るわけがない。
	× 百貨店(企画担当)	お客様の様子	・平成30年7月豪雨の影響で、前半は売上が非常に大きく落ち込み、その後も回復していない。
	× タクシー運転手	来客数の動き	・夏が来て暑くなったため、短い距離でも客に乗ってもらえているが、夜の仕事で、なかなか長い距離が出ず、売上は伸びない。お遍路の仕事もなく、街だけで稼がないといけない状況なので、悪くなっている。
企業 動向 関連 (四国)	鉄鋼業(総務部長)	受注量や販売量の動き	・主力造船関連の受注、販売が順調である。
	輸送業(支店長)	受注量や販売量の動き	・季節要因ではあるが、猛暑の影響で飲料関連の荷動きが活発である。
	食料品製造業(商品統括)	競争相手の様子	・競合他社4社は、選択と集中を行い、売上・利益確保ができていくことが明らかで、遅ればせながら追随をしている我が社は厳しい状態ながら前向きに進めている。
	繊維工業(経営者)	受注量や販売量の動き	・7月中旬からの熱波による異常気象で、高温が続いており、夏物商品の店頭販売が順調である。特に夏商品であるハンカチや手ぬぐいタオルの受注が旺盛になってきた。
	パルプ・紙・紙加工品製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・商品の形状を変え、新たなニーズを掘り起こしている。
	化学工業(所長)	受注量や販売量の動き	・猛暑の影響で飲料関係の荷動きは良いが、外食向けレジャーは低調であり、トータルでは変化はない。
	電気機械器具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・再生可能エネルギーは、経済産業省等が固定価格買取制度の変更を行い、その切替えに大変苦慮している。客に迷惑をかけており、損失を出している。
	電気機械器具製造業(経理)	受注量や販売量の動き	・販売数量に関して、品種別には多少の増減があるものの、総量並びに総額としては大きな変動は認められない。
	建設業(経営者)	受注量や販売量の動き	・受注量が思うようには伸びない。

	農林水産業（職員）	取引先の様子	・青果物の卸売状況は、天候に左右されることが多く、この猛暑は、食欲を減退させ、飲料等に消費が流れている。そのため、卸売市場の入荷量が多くないにも関わらず、荷動きは今一つの状況が続いている。また、青果物の日持ちも悪く、流通段階でのロスも多いことから、利益率も下がっている。
	木材木製品製造業（資材購買）	受注価格や販売価格の動き	・平成30年7月豪雨による冠水被害や土砂災害、全国的な酷暑日など気候変動がもたらす経済へのマイナス効果があった。
	建設業（経営者）	取引先の様子	・四国は、平成30年7月豪雨の復旧のための業務で超多忙となっており、この関連業界にとっては財務上はプラスである。一方、1次産業や建物浸水の被害の大きさ、死傷者の多さから、地域経済全体は停滞、またイベント中止など自粛ムードも高く、気持ち的にも明るさが不足している。景気としては、災害のために、やや悪くなっている。
	輸送業（営業）	受注量や販売量の動き	・梅雨明け以降晴天が続く取扱物量も堅調に推移したが、平成30年7月豪雨の影響を受け月後半は中国・九州方面の取扱物量に減少が見られた。晴天続きで季節商材の動きが活発化してきた反面、少雨による農作物、とりわけ秋以降に収穫期を迎える果実への影響が心配される。
	通信業（企画・売上管理）	取引先の様子	・平成30年7月豪雨により、受注量が微減した。
	金融業（副支店長）	それ以外	・本社、工場の所在地によっては、平成30年7月豪雨の被害を受けている。
	公認会計士	取引先の様子	・平成30年7月豪雨の被害が予想外に広がっており、景気の悪化が心配される。今月の景気動向を、決算書あるいは試算表等で比較すると、前年と余り変わらない状態であるが、豪雨被害が今後非常に心配される場所である。
	x	-	-
雇用関連			
(四国)	人材派遣会社（営業担当）	求職者数の動き	・派遣スタッフの登録が多く、ハローワークの案件と競合している。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・引き続き、低いレベルで安定している。
	職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・過去最高の求人倍率が続いているものの、中途採用時の条件は変化していない。
	人材派遣会社（営業）	周辺企業の様子	・平成30年7月豪雨による被害復旧にかかる作業及び、利用者の減少による売上減が、景気の悪化に影響している。
	人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・派遣でも高時給には求職はあるが、偏りが激しい。
	求人情報誌（営業）	周辺企業の様子	・人材不足が特に中小企業で深刻である。募集を行っても人材が充足できることはまれな状態が慢性化しており、疲弊している企業が多い。
	職業安定所（求人開発）	それ以外	・6月の有効求人倍率は1.44倍だが、3か月前と比べて、0.13ポイント減少しているのも、やや悪くなっている。平成30年7月豪雨の影響も、若干出てきていると思う。
	民間職業紹介機関（所長）	周辺企業の様子	・酷暑の影響で野菜が高騰し、漬物・総菜等の製造系の企業が現状の価格を維持するのに四苦八苦している。このまま酷暑が長引けば、価格を上げざるを得ない企業も出てきている。少なからず、国民生活に影響が出るのではないかと。
	x	-	-